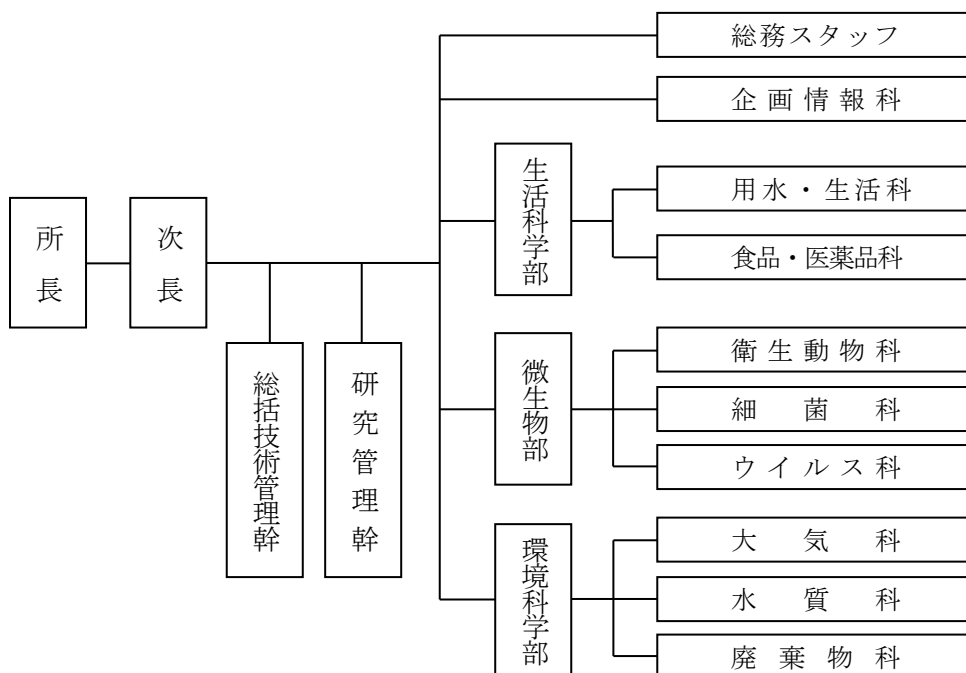


I 組織と沿革



組織



沿革

- 昭和 24 年 県立医学研究所として、甲府市中央に創設。
- 昭和 35 年 県立衛生研究所に改称。
- 昭和 46 年 甲府市富士見に新築移転。
- 昭和 48 年 衛生検査センターを甲府市中央に創設し、行政検査の一部を分掌。
- 昭和 50 年 県立衛生研究所を県立衛生公害研究所に改称。
- 昭和 59 年 衛生検査センターを甲府市太田町に新築移転し検査機能を強化。
- 昭和 60 年 県立衛生公害研究所を衛生公害研究所に改称。
- 平成 9 年 衛生検査センターを衛生監視指導センターに改称。
- 平成 22 年 衛生公害研究所と衛生監視指導センターを組織統合し、衛生環境研究所に改称。
旧衛生公害研究所を本所、旧衛生監視指導センターを分所として業務開始。
- 平成 24 年 分所から機器等を本所に移転し、業務を統合。

Ⅱ 業務報告

企画情報科・総務スタッフ

1 講師派遣及び研修の実施状況

該当なし。

2 委員会、協議会並びに業務関連学会の委員など

委嘱団体等の名称	役員等の名称	職員氏名	任期その他
地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部	公衆衛生情報部会委員	植松 香星	令和5年度
地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部	ウイルス研究部会委員	大沼 正行	令和5年度
(一社) 山梨県浄化槽協会	精度管理委員	堀内 雅人	令和5年度
(公財) 日本水環境学会関東支部	幹事	長谷川 裕弥	令和5年度
(公財) 日本水環境学会地域水環境行政研究委員会	幹事	長谷川 裕弥	令和5年度

3 来所者

月 日	目 的	来 所 者
8月 8日	医師研修	山梨大学附属病院研修医 (1名)
8月23日	インターンシップ	薬剤師職希望大学生 (1名)
8月24日	インターンシップ	薬剤師職希望大学生 (6名)
9月22日	医師研修	山梨大学附属病院研修医 (1名)
10月19日	医師研修	山梨大学附属病院研修医 (1名)
12月27日	しごと紹介セミナー	化学職希望大学生 (3名) 薬剤師職希望大学生 (1名)

4 刊行物

年 月	名 称	概 要
6年3月	山梨県衛生環境研究所年報 第66号	研究報告、業務報告、資料、学会発表等

当所ホームページ (<https://www.pref.yamanashi.jp/eikanken/index.html>) に掲載

5 所内の技術研修

月 日	発 表 者	内 容
4月26日	志村 ひとみ 土屋 邦男	サービス規律の確保について 電話等の対応について
5月31日	堀内 雅人	実験安全について
8月30日	土屋 邦男	毒物・劇物の取り扱いについて
9月27日	長谷川 裕弥 志村 ひとみ	情報セキュリティについて 事務処理ミス防止対策について
10月25日	堀内 雅人	火災発生時の対応について
11月29日	土屋 邦男	倫理指針の一部改正について
1月24日	土屋 邦男	新たな化学物質規制について

6 研究倫理に関する研修

受講者	実施機関	研修コース
所員全員	日本学術 振興会	研究倫理 e-ラーニング

7 成果発表会

開 催 日	令和6年3月14日	
方 法	Teamsによるオンライン開催	
内容	発表者	発表題名
口 頭 発 表	柳本 恵太	モノクロミン消毒を行った高アルカリ性温泉における菌叢解析
	大橋 泰浩	PM _{2.5} 小型測定器P-Sensorを活用した県民の生活環境におけるPM _{2.5} 調査
	望月 映希	水中農薬成分のLC-MSMS直接注入法による一斉分析法の検討

8 調査研究課題評価及び倫理審査

調査研究課題に関する評価の客観性、公正さ、信頼性を確保するため、外部専門家を評価者とする外部評価委員会を開催した。

(1) 外部評価委員会の開催

【研究課題評価（事前・事後評価）及び倫理審査】

開催日	令和 5 年 9 月 8 日
開催方法	対面及び Web 形式（委員 1 名のみオンライン参加）
評価者	外部評価委員 7 名
評価内容	調査研究開始前及び終了した調査研究課題についての適切性・妥当性と新規調査研究の倫理審査について 終了した研究課題 3 題 新規調査の倫理審査 1 題

(2) 評価委員

会長	風間ふたば	山梨大学 名誉教授
副会長	高山 一郎	山梨大学医学部 保健管理センター 教授
委員	大西 一成	聖路加国際大学公衆衛生大学院 准教授
委員	小島 夏子	(公財) やまなし産業支援機構 山梨県知財総合支援窓口
委員	中川 裕子	山梨学院短期大学 食物栄養科 教授
委員	藤原 真史	山梨大学大学院総合研究部 生命環境学域 准教授
委員	箕浦 一哉	山梨県立大学 国際政策学部 総合政策学科 教授

(3) 評価方法

各評価項目の評価に基づき、5段階（5：優れている、4：良好、3：概ね良好、2：部分的見直しを要す、1：全面的見直しを要す）の総合評価を行い、コメントを付す。

事前評価項目	1	研究の必要性
	2	研究内容の妥当性
	3	研究内容の新規性・独創性
	4	研究資源の妥当性
	5	目的達成の可能性
	6	期待される研究成果

事後評価項目	1	目的の達成度
	2	研究成果の活用
	3	今後の発展性

倫理審査	1	承認
	2	条件付承認
	3	変更の勧告
	4	不承認
	5	非該当

(4) 評価結果

【研究課題評価（事後評価）】

総合評価点 2 題 「4：良好」 1 題 「3：概ね良好」であった。（表 1）

【倫理審査】 1 題 「1：承認」（表 2）

表 1 第 1 回研究課題評価（事後評価）

研究課題名	ブタクサの開花日予測に向けたブタクサの植生・開花調査と気象データの解析
総合評価点	4
総合コメント	県民の健康に密着した課題に取り組み、結果を県民に還元できるまでの成果をあげたことは高く評価できる。早めに情報が欲しい県民も多いと考えられることから、この成果をより迅速に県民に対して情報提供できる仕組みの構築を、研究所に期待する。
研究課題名	PM2.5小型測定器P-Sensorを活用した県民の生活環境におけるPM2.5調査
総合評価点	3
総合コメント	県民に対して、PM2.5を身近な物として認識してもらうには、本研究で着眼した小型計測器の利用は非常に有効であると考えられる。県民への環境教育に取り入れるなど、使い方の工夫により、大気汚染への理解や対策に活用できると思われる。そのような面からの今後の展開に期待したい。
研究課題名	富士・東部地域の温泉資源動向調査
総合評価点	4
総合コメント	本研究で示したように、温泉資源の保全において科学的なモニタリングは必須である。本県における温泉資源の重要性を考えれば、今後温泉所有者が行政と協力しつつ継続的なデータを取得することを奨励する、場所によっては義務付けることを盛り込んだ条例の策定など、一歩踏み込んだ行政施策が必要であろう。本研究成果を生かしつつ、研究所から県に提案するなどの動きを強く期待する。

表 2 倫理審査

研究課題名	塩素消毒が困難な泉質におけるモノクロミン消毒の有効性に関する検討
倫理審査結果	1

生活科学部

試験検査 実績

部名	科名	区分	小区分	行政試験		依頼試験		合計		備考	
				検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数		
生活科学部	用水・生活科	飲用水・用水等の試験	水道水試験	0	0	0	0	0	0		
			水道原水試験(項目:農薬)	50	1,246	0	0	50	1,246		
			一般飲料水試験	0	0	0	0	0	0		
			用水試験	0	0	0	0	0	0		
			放射能	85	255	0	0	85	255		
			その他	0	0	0	0	0	0		
		家庭用品試験	家庭用品試験	48	148	0	0	48	148		
		温泉分析	温泉分析	18	305	0	0	18	305		
		科 計			201	1,954	0	0	201	1,954	
	食品・医薬品科	食品等試験	残留農薬試験	113	23,406	0	0	113	23,406		
			食品等の理化学試験	271	2,596	0	0	271	2,596		
			放射能	64	175	0	0	64	175		
			残留動物用医薬品	112	4,524	0	0	112	4,524		
			その他	0	0	0	0	0	0		
		医薬品試験	医薬品等の試験	10	21	0	0	10	21		
		科 計			570	30,722	0	0	570	30,722	
	部 計				771	32,676	0	0	771	32,676	

1 用水・生活科

山梨県水道水質管理計画に基づく水質監視

「令和 5 年度水質監視実施計画」に基づき、県内の水道原水を 6 月 (24 定点) と 9 月 (26 定点) に採水し、水質管理目標設定項目の農薬類について調査した。水質管理目標設定項目の農薬類は全ての定点で不検出だった。

水道水中の放射性物質検査

原子力発電所放射能漏れ事故に関連し、県内 85 箇所の水道水 85 検体の放射性物質試験(対象放射性核種は、Cs-134、Cs-137)を実施したが、いずれも不検出だった。

温泉の定時・定点調査

温泉資源の保護および有効利用のための基礎資料を蓄積するために、既存温泉の定時・定点調査を昭和 60 年度から行っている。令和 5 年度も森林環境部大気水質保全課と共同で、中北および峡東林務環境事務所管内の 18 定点について、温泉水を採取して主要成分を分析した。

家庭用品

福祉保健部衛生業務課が試買した繊維製品 48 検体についてホルムアルデヒドの検査を、4 検体についてアゾ化合物(芳香族特定アミンを生成するものに限る)の検査を実施した。

全ての検体において基準値以下であった。

室内空気中の揮発性有機化合物濃度調査

県内 3 か所の家屋の室内空気中の揮発性有機化合物の採取を年 1 回 (8 月) 行った。検体は国立医薬品食品衛生研究所に送り分析された。

2 食品・医薬品科

残留農薬試験

「令和 5 年度山梨県食品衛生監視指導計画」に基づいて収去された国産の農産物 (果実・野菜等) 69 件 (県内産 62 件、県外産 7 件) と輸入食品 14 件 (農産物 9 件、冷凍食品 5 件) について、概ね 240 項目の農薬を検査したが、全ての検体が残留基準以下であった。(資料 表 1-1、1-2)

また、「畜水産食品の残留有害物質モニタリング検査実施要領」に基づき、県内産の牛・豚・鶏 30 件 (牛 12 件、豚 10 件、鶏 8 件) の筋肉について、残留農薬試験を実施したが、いずれも不検出だった。

理化学試験

「令和 5 年度山梨県食品衛生監視指導計画」に基づいて収去された、果実酒、ミネラルウォーター、清涼飲料水、漬物等の食品 265 検体について、2583 項目の食品添加物等の検査を実施した。また、折り紙とミニカーのおもちゃ 2 検体と、皿、茶碗等の食器類 4 検体について、13 項目の溶出物等の検査を実施した。いずれの検査も、すべて基準に適合していた。(資料 表 1-3)

残留動物用医薬品試験

「畜水産食品の残留有害物質モニタリング検査実施要領」に基づき、県内産の淡水魚 (10 件)、鶏卵 (14 件) の抗生物質および合成抗菌剤等について検査を実施したが、全て不検出だった。

また、県内産の牛 12 個体、豚 10 個体、鶏 8 個体の筋肉、腎臓、肝臓の 3 部位について、妥当性評価試験が終了した約 46 項目の動物用医薬品試験をしたところ、いずれも不検出だった。

農産物等の放射性物質試験

原子力発電所放射能漏れ事故に関連し、県内で生産もしくは流通する食品等、64 検体 (収去 42 検体を含む) の放射性物質試験 (対象放射性核種は、I-131、Cs-134、Cs-137 の 3 核種) を実施した。

医薬品等の試験

「令和 5 年度医薬品・医療機器等一斉監視指導実施要領」に基づき、12 月に衛生薬務課が収去した医薬品 8 件及び 2 月に衛生薬務課が収去した医薬品 1 件の規格等の試験検査と、12 月に衛生薬務課が収去した真空採血管 1 件の日本工業規格試験 (一部) を実施した。いずれも基準不適合は無かった。

食品衛生外部精度管理調査

「試験検査等業務管理要領」に基づき、(財) 食品薬品安全センター秦野研究所が実施した外部精度管理調査に参加した。対象物質は残留農薬のチオベンカルブ、クロロピリホス、フルトラニル、食品添加物の着色料、ソルビン酸、残留動物用医薬品のスルファジミジン、米のカドミウムを試験した。

地方衛生研究所地域保健総合推進事業に係る模擬試料による訓練への参加

ダイエットを標榜したいわゆる健康食品 (カプセル) の摂取による有症苦情を想定し、模擬試料に含まれるフェノールフタレインを試験した。カプセル内容物を溶媒で抽出し、GC/MS で定性をおこなった後、推定された物質の標準品を用いて確認をおこなった。結果を報告するとともに、各地衛研の結果について、オンラインによる意見交換を行い関連事故への対応を協議した。

微生物部

試験検査 実績

科名	区 分		小 区 分		行政試験	
					検体数	項目数
衛生動物科	寄生虫検査				0	0
	衛生動物検査				13	13
	花粉飛散量調査				134	245
	食品衛生検査		食中毒集団下痢検査		0	0
			アニサキス同定検査		4	4
		計		151	262	
細菌科	感染症等検査		腸管出血性大腸菌検査		496	3,472
			その他三類感染症検査		2	8
			薬剤耐性菌検査		4	20
			レジオネラ属菌検査		4	16
			結核菌検査		0	6
	食品衛生検査		食中毒集団下痢検査		156	2,808
			食品検査		2	6
	医薬品等検査		無菌試験		0	0
	浴槽水収去検査		レジオネラ属菌検査		42	168
	食品収去検査		細菌検査		444	1,389
ふきとり検査		細菌検査		1,498	2,996	
		計		1,650	8,290	
ウイルス科	流行予測調査		インフルエンザ		114	228
	感染症発生動向調査		定 点	ウイルス分離検査	177	753
			定点以外	ウイルス分離検査	27	94
			新型コロナウイルス検査		2,433	2,433
	食品衛生検査		食中毒集団下痢検査		492	1,086
		計		3,243	4,594	
		合 計		58,751	69,725	

1 衛生動物科

衛生動物・寄生虫及び食品衛生検査

同定依頼、駆除法および生態等についての問い合わせが 20 件（昆虫類 8 件、アニサキス 4 件、その他 8 件）であった。内訳は衛生動物についての同定依頼が 13 件、電話相談が 3 件、食品衛生検査のアニサキス同定検査が 4 件であった。（資料 表 2-1）

花粉飛散量調査

甲府地区で実施した今季（2024. 1. 1～2024. 5. 13）の総飛散数は 6400. 7 個/cm²（スギ花粉 960. 3 個/cm²、ヒノキ花粉 5440. 4 個/cm²）であった。これは前年（それぞれ 6337. 7 個/cm²、2832. 7 個/cm²）と比較してスギ花粉は 0. 15 倍と少なく、ヒノキ花粉は 2. 0 倍と多かった。

（資料 表 2-2）

2 細菌科

感染症等に関する検査

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づいて、医療機関から保健所に届出があった全数報告の三～五類感染症の調査として、保健所から依頼された細菌検査を行った。

三類感染症では、腸管出血性大腸菌感染症 496 検体について分離・同定を行い、分離菌株について毒素型別、血清型別、MLVA 検査を行った。

四類感染症では、レジオネラ症の患者喀痰 4 検体について、分離・同定を行った。

五類感染症では、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の分離菌株 4 検体について、菌種同定、薬剤感受性試験、耐性遺伝子及びカルバペネマーゼ産生性の検査を行った。（資料 表 2-3）

食中毒・集団下痢症等の検査

食中毒疑い及び集団下痢症事例について、保健所から依頼された糞便（82 検体）、食品（18 検体）、ふきとり・その他（56 検体）の細菌検査を行ったところ、糞便からウェルシュ菌（7 株）、黄色ブドウ球菌（2 株）、カンピロバクター（4 株）、腸管病原性大腸菌（1 株）が分離された。（資料 表 2-4）

食品・医薬品等に関する検査

保健所から依頼された苦情食品（2 検体）について、一般生菌数、大腸菌群、黄色ブドウ球菌の検査を実施した。（資料 表 2-5）

浴槽水等のレジオネラ属菌検査

レジオネラ症患者発生に伴う関連調査で、保健所から依頼された浴槽水及びふきとり 42 検体の検査を行ったところ、3 検体から 5 株のレジオネラ属菌が分離された。（資料 表 2-6）

食品収去検査

「令和 5 年度山梨県食品衛生監視指導計画」に基づいて収去された食品 444 検体について、一般生菌数、大腸菌群、E. coli 等 1, 389 項目の細菌検査を行った。（資料 表 2-8）

ふきとり検査

施設の衛生指導を目的とした、まな板、包丁等 1, 498 カ所のふきとり検体について、大腸菌群と黄色ブドウ球菌の検査を行ったところ、大腸菌群は 129 カ所（8. 6%）、黄色ブドウ球菌は 25 カ所（1. 7%）が陽性であった。（資料 表 2-7）

食品衛生外部精度管理

「試験検査等業務管理要綱」に基づき、（財）食品薬品安全センター秦野研究所が実施した外部精度管理に参加した。模擬食材を対象に、6 月に E. coli、7 月に一般細菌数測定、10 月にサルモネラ属菌を実施し、いずれも良好な結果であった。

3 ウイルス科

インフルエンザ流行予測感受性調査

令和 5 年 7・8 月に山梨県民 114 名（0～4 歳群：0 名、5～9 歳群：3 名、10～14 歳群：5 名、15～19 歳群：5 名、20～29 歳群：18 名、30～39 歳群：17 名、40～49、50～59、60 歳以上の各年齢群：各 22 名）から採血した血清を検査材料とした。抗原は、インフルエンザワクチン株 4 株（A/Victoria/4897/2022 [A (H1N1) pdm09 亜型]、A/Darwin/9/2021 [A (H3N2) 亜型]、B/Phuket/3073/2013 [B 型（山形系統）]、B/Austria/1359417/2021 [B 型（ビクトリア系統）]）を用い、これらの株に対する血清中の赤血球凝集抑制（HI）抗体価を測定した。詳細は本書の研究報告を参照。（資料 表 2-9）

感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況

令和 5 年度に山梨県内の医療機関で感染症患者から採取された検体について、MDCK 細胞を用いたウイルス分離を行った。

分離ウイルスについて RT-PCR 法およびリアルタイム PCR 法によりウイルス同定を行った。

インフルエンザウイルスは A (H3) 亜型が 89 検体検出され流行の中心となった。A (H1) pdm09 亜型は 23 検体検出され、B 型については B 型 (ビクトリア系統) が 23 検体検出された。1 検体では A (H1) pdm09 亜型と A (H3) 亜型ともに検出された。

令和 5 年 7 月にエムボックスウイルスが海外渡航歴のある有症状者から検出された。また、7 月に E 型肝炎ウイルスが検出された。

令和 2 年 2 月上旬より継続してリアルタイム PCR 法による新型コロナウイルス検査を実施している。令和 5 年度は 2,433 検体の検査を実施し、222 検体から検出された。(資料表 2-10)

食中毒・集団下痢症のウイルス等検査

令和 5 年度に保健所から依頼された食中毒、集団下痢症 37 事例の 492 検体について、リアルタイム PCR 法および RT-PCR 法によるウイルス等の検出を行った。その結果、30 事例からウイルス等が検出された。検出されたのは、ノロウイルス G I とノロウイルス G II、ヒトパレコウイルス、サポウイルスであった。また、寄生虫の *Kudoa septempunctata* も検出された。検出されたウイルスではノロウイルス G II が最も多く、24 事例から検出された。また、ノロウイルス G I は 2 事例で検出された。ヒトパレコウイルスは 1 事例、サポウイルスは 1 事例で検出された。また、ノロウイルス G I とノロウイルス G II の混合検出事例が 1 事例、ノロウイルス G I と *Kudoa septempunctata* の混合検出事例が 1 事例発生した。(資料表 2-11)

環境科学部

試験検査 実績

科名	区 分	小 区 分	行政試験	
			検体数	項目数
大気科	環境大気試験	大気汚染常時監視	546,464	546,464
		有害大気汚染物質	72	792
		アスベスト	6	12
		PM2.5成分	108	1,080
	発生源試験	事業所排ガス	2	17
		騒音、振動、悪臭調査	0	0
		パネル選定試験	0	0
	環境放射能試験	放射能常時監視（モニタリングポスト）	366	366
		環境試料	23	1,449
		降水	79	79
		精度管理模擬試料	7	145
		事故対応（サーベイメータ）	12	12
	その他	事故、苦情等	22	256
		受託調査	6	27
		計	547,167	550,699
水質科	環境水質試験	公共用水、地下水	564	8,114
		富士五湖	108	2,268
		早川、富士川モニタリング	18	54
	その他	事故、苦情等	2	6
		受託調査	3	36
			計	695
廃棄物科	廃棄物試験	焼却灰	0	0
	土壌試験	事故、苦情等	0	0
	排水試験	事業所排水	159	1,138
		一般廃棄物処理施設	11	72
		産業廃棄物処理施設	10	180
	その他	不法投棄、事故、苦情等	0	0
			計	180
		合 計	548,042	562,567

1 大気科

環境大気試験

大気汚染常時監視局10局の機器の稼働状況を確認するとともに、オキシダント濃度、窒素酸化物濃度、微小粒子状物質 (PM_{2.5}) 濃度などのデータの確定作業を行った。

微小粒子状物質 (PM_{2.5}) の注意喚起実施地域区分の見直しのため、峡南地域を対象にデータ収集及び解析を行った。

また、有害大気汚染物質のうち、ベンゼンなど11物質について、延べ60検体を測定した。

アスベストは、一般環境1地点で濃度を測定した。

発生源試験

事業場のばい煙発生施設2施設で、排ガス中の窒素酸化物などの測定を行った。

受託調査等

環境省の「化学物質環境実態調査」に参画し、甲府市内で大気汚染物質を採取した。調査結果は環境省から公表される。

放射能水準調査

原子力規制庁からの委託事業として、モニタリングポストで放射線量を常時監視した。また、月間降下物、土壌、上水、農畜産物、大気浮遊粉じんなどの環境試料23検体の放射性元素を測定した。さらに降水を延べ79回測定した。以上の結果は、原子力規制庁から公表される。

放射能精度管理試験

公益財団法人日本分析センターが配布する放射能試料7検体を測定し、分析精度を確認した。

福島原発事故対応モニタリング調査

平成23年3月11日に発生した福島第一原子力発電所事故に係るモニタリング調査を原子力規制庁の指示により行った。サーベイメータにより放射線量の測定を毎月1回行った。これらの結果は、山梨県及び原子力規制庁のホームページで公表されている。

騒音調査

騒音の苦情及び公害調停に対応するため、延べ10地点で、22の騒音測定結果を得た。

2 水質科

環境水質試験

河川、湖沼の公共用水域及び地下水延べ564検体について、それぞれ環境基準項目等を測定した。また、これらの測定に加え、湖沼の水質を保全する目的で、富士五湖の延べ108検体について、水質を検査した。

早川の濁りなどの影響や経過をモニタリングするため、延べ18検体の水質を検査した。

受託調査等

環境省の「化学物質環境実態調査」に参画し、甲府市内の河川で底質を採取した。調査結果は環境省から公表される。

苦情、事故等に伴う検査

地下水の水質調査のため、湧水2検体の検査を行った。
(資料表3)

3 廃棄物科

排水試験

事業場の排水延べ159検体、し尿処理施設、最終処分場などの排水延べ21検体の検査を行った。

Ⅲ 資 料

- 表 1- 1 令和 5 年度 山梨県内流通国産農産物残留農薬試験結果
- 表 1- 2 令和 5 年度 山梨県内流通輸入食品（農産物・冷凍食品）残留農薬試験結果
- 表 1- 3 令和 5 年度 食品の理化学検査結果
- 表 2- 1 令和 5 年度 衛生動物・寄生虫等検査結果
- 表 2- 2 令和 6 年 甲府地区スギ・ヒノキ花粉飛散量別日数及び平均値
- 表 2- 3 令和 5 年度 細菌感染症等に関する検査結果
- 表 2- 4 令和 5 年度 食中毒・集団下痢症等の細菌検査結果
- 表 2- 5 令和 5 年度 食品・医薬品等に関する細菌検査結果
- 表 2- 6 令和 5 年度 浴槽水等レジオネラ属菌検査結果
- 表 2- 7 令和 5 年度 ふきとり検査結果
- 表 2- 8 令和 5 年度 収去食品の細菌検査件数
- 表 2- 9 令和 5 年度 インフルエンザ流行予測調査結果
- 表 2-10 令和 5 年度 感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況と臨床像
- 表 2-11 令和 5 年度 食中毒・集団下痢症のウイルス等検査
- 表 3 令和 5 年度 環境汚染に係る苦情、事故等に伴う検査

表 1-1 令和 5 年度 山梨県内流通国産農産物残留農薬試験結果

食品名 検体数	にんじん 2	きゅうり 6	おうとう 6	だいこん 1	なす 2	ずもも 9
アクリナトリン	—	—	0.04-0.1(3)	—	—	—
アセタミプリド	—	0.1(1)	—	—	0.05(1)	0.008(1)
アゾキシストロビン	—	0.003-0.05(2)	0.02-0.08(4)	—	—	0.02-0.03(3)
イミダクロプリド	—	—	—	—	—	0.003(1)
オキサジキシル	—	0.002(1)	—	—	—	—
クレソキシムメチル	—	0.003(1)	—	—	—	—
クロチアニジン	—	0.001(1)	—	—	—	—
クロラントラニリプロール	—	0.01(1)	0.007-0.03(4)	—	—	0.008-0.02(5)
クロルピリホス	—	—	—	—	—	0.002-0.006(6)
クロルフェナビル	—	—	—	—	—	—
シプロジニル	—	—	—	—	—	—
シメコナゾール	—	0.001(1)	—	—	—	—
スピノサド	—	—	—	—	—	—
ダイアジノン	0.006(1)	—	—	—	—	—
チアクロプリド	—	—	—	—	—	0.002(1)
テトラコナゾール	—	—	—	—	—	—
テブコナゾール	—	—	0.002-0.5(6)	—	—	0.003-0.02(4)
テブフェンピラド	—	0.007(1)	—	—	—	—
テフルトリン	0.001(1)	—	—	0.005(1)	—	—
デルタメトリン及びトラロメトリン	—	—	—	—	—	—
トルクロホスメチル	0.001(1)	0.002(1)	—	—	—	—
トルフェンピラド	—	0.04(1)	—	—	—	—
ピリダベン	—	0.01(1)	—	—	—	—
ピリメタニル	—	—	—	—	—	—
ビフェントリン	—	—	0.001-0.2(6)	—	—	0.02-0.03(2)
ピラクロストロビン	—	—	0.003-0.4(3)	—	—	—
フェンブコナゾール	—	—	0.001-0.006(3)	—	—	0.002-0.02(8)
ブプロフェジン	—	—	0.004-0.01(3)	—	—	0.005(1)
フルジオキソニル	—	0.01(1)	—	—	—	—
フルフェノクスロン	—	0.002-0.003(2)	—	—	—	0.001(1)
プロシミドン	—	0.001(3)	—	—	0.005(1)	—
プロチオホス	—	—	—	—	—	—
ベルメトリン	—	0.002(1)	0.002(1)	—	—	0.001-0.06(6)
ボスカリド	0.007(1)	0.002(1)	0.02-0.8(3)	—	—	—
メタラキシル及びメフェノキサム	—	0.001(1)	—	—	—	—
メチダチオン	—	—	0.005(1)	—	—	0.001(1)
メバニピリム	—	—	—	—	—	—

食品名 検体数	とうもろこし 1	もも 12	ぶどう 16	キャベツ 1	かぼちゃ 1	かき 2
アクリナトリン	—	0.007-0.01(3)	0.05-0.06(2)	—	—	—
アセタミプリド	—	—	—	—	—	—
アゾキシストロビン	—	—	0.003-0.3(5)	—	—	—
イミダクロプリド	0.002(1)	0.008(1)	0.004-0.06(4)	—	—	—
オキサジキシル	—	—	—	—	—	—
クレソキシムメチル	—	0.002(1)	—	—	—	—
クロチアニジン	—	—	0.2(1)	—	—	—
クロラントラニリプロール	—	—	0.09(1)	—	—	—
クロルピリホス	—	—	—	—	—	—
クロルフェナビル	—	—	0.005-0.08(7)	—	—	—
シプロジニル	—	—	0.002-0.08(9)	—	—	—
シメコナゾール	—	—	—	—	—	—
スピノサド	—	0.001-0.02(2)	—	—	—	—
ダイアジノン	—	—	—	—	—	—
チアクロプリド	—	—	—	—	—	—
テトラコナゾール	—	—	—	—	0.002(1)	—
テブコナゾール	—	—	0.001-0.3(11)	0.003(1)	—	0.002-0.07(2)
テブフェンピラド	—	—	—	—	—	—
テフルトリン	—	—	—	—	—	—
デルタメトリン及びトラロメトリン	—	—	0.005-0.03(6)	—	—	—
トルクロホスメチル	—	—	—	—	—	—
トルフェンピラド	—	—	—	—	—	—
ピリダベン	—	—	—	—	—	—
ピリメタニル	—	—	0.001(1)	—	—	—
ビフェントリン	—	—	0.001(3)	—	—	—
ピラクロストロビン	—	—	—	—	—	—
フェンブコナゾール	—	0.002-0.01(9)	0.002-0.06(2)	—	—	—
ブプロフェジン	—	—	—	—	—	—
フルジオキソニル	—	—	0.005-0.3(9)	—	—	—
フルフェノクスロン	—	0.001-0.007(7)	—	—	—	—
プロシミドン	—	—	0.002(1)	—	0.002(1)	—
プロチオホス	—	—	—	—	0.003(1)	—
ベルメトリン	—	—	0.001-0.005(3)	—	—	—
ボスカリド	—	—	—	—	—	—
メタラキシル及びメフェノキサム	—	—	—	0.001(1)	—	—
メチダチオン	—	0.001-0.002(3)	—	—	—	—
メバニピリム	—	—	0.02(1)	—	—	—

()内は検出数

以下の食品からは農薬は検出されなかった。

キャベツ(2検体)、トマト(2検体)、なす(1検体)、かき(2検体)、キウイ(3検体)

表 1-2 令和 5 年度 山梨県内流通輸入食品（農産物・冷凍食品）残留農薬試験結果

食品名 検体数	バナナ 2	冷凍かぼちゃ 1	冷凍にんじん 1	かぼちゃ 1	オレンジ 2	グレープフルーツ 2
イミダクロプリド	—	—	—	0.005(1)	0.001(1)	0.001-0.002(2)
クロチアニジン	—	—	—	—	0.004(1)	0.001-0.003(2)
クロルピリホス	0.003-0.03(2)	—	—	—	0.002(1)	—
シハロトリン	0.002(1)	—	—	—	—	—
トリフルラリン	—	0.003(1)	0.002(1)	0.001(1)	—	—
プロピコナゾール	—	—	—	—	—	0.002-0.003(2)
ペルメトリン	—	0.001(1)	—	—	—	—

()内は検出数

以下の食品からは農薬は検出されなかった。

キウイー(1検体)、冷凍さといも(1検体)、冷凍だいこん(1検体)、冷凍カリフラワー(1検体)、グレープフルーツ(1検体)

表 1-3 令和5年度 食品の理化学検査結果

収去者	衛生薬務課																			保健所		合計	
	乳・乳製品	アイスクリーム類	生あん類	菓子類	果実酒・雑酒	食肉製品	こんにやく粉	魚肉ねり製品	清涼飲料水・果汁	ミネラルウォーター	調味料	漬物	菌食品	容器包装詰加熱加圧殺菌食品	あんぼ柿・ころ柿	めん類	乾燥果実	おもちや	器具及び容器包装	かんきつ類	小計		魚肉ねり製品
検体数	8	2	4	2	111	6	2	5	35	43	4	11	0	12	8	5	2	4	5	269	0	2	271
二酸化硫黄			4		111		2							12		5				134			134
ソルビン酸					111	6		5			1	11					5			139			139
安息香酸									35		4	11								50			50
パラオキシ安息香酸									35		4	11								50			50
サッカリンナトリウム																				0			0
プロピレングリコール															8					8		2	10
タール色素				2				1				6					1			10			10
亜硝酸根						6														6			6
混濁									35											35			35
沈殿物及び固形の異物									35											35			35
ヒ素									35									2		37			37
鉛									35									2	4	41			41
カドミウム																		1	4	5			5
スズ																				0			0
PH									35											35			35
乳脂肪分	8	2																		10			10
無脂乳固形分	8	2																		10			10
比重	1																			1			1
酸度	1																			1			1
シアン化合物			4																	4			4
防ばい剤																			5	5			5
合成抗菌剤																				0			0
抗生物質																				0			0
内寄生虫用剤																				0			0
MW規格										1978										1978			1978
フタル酸エステル類																				0			0
亜鉛																				0			0
フェノール																				0			0
ホルムアルデヒド																				0			0
パツリン																				0			0
合計	18	4	8	2	222	12	2	6	245	1978	9	39	0	12	8	11	5	8	5	2,594	0	2	2,596

表 2-1 令和 5 年度 衛生動物・寄生虫等検査結果

分類	昆虫類	ダニ類	その他	同定不能	アニサキス	計
食品異物	0	0	0	0	0	0
衛生動物	6	0	7	0	0	13
寄生虫	0	0	0	0	0	0
電話相談	2	0	1	0	0	3
食品衛生	0	0	0	0	4	4
計	8	0	8	0	4	20

(衛生動物・寄生虫等検査結果内訳)

月 日	依頼機関	数量	結果	備考
4/ 6	峡東林務環境事務所	1	ヒアリではないアリ	ヒアリ疑い
4/ 7	甲府市保健所	1	アニサキス	食品衛生検査
4/17	峡東林務環境事務所	1	セアカゴケグモ	セアカゴケグモ疑い
4/20	富士・東部林務環境事務所	2	ヒアリではないアリ	ヒアリ疑い
5/ 2	富士・東部保健福祉事務所	1	アニサキス	食品衛生検査
5/19	県民	1	電話相談	ムラサキトビムシによる害について
5/25	峡東保健所	1	タカサゴキララマダニ若ダニ	身体表面にいたダニの同定依頼
5/30	中北林務環境事務所	1	ハナグモ	ハイイロゴケグモ疑い
7/27	峡南保健所	1	ハエ類(虫体破損により同定困難)	見たことがない蚊に刺され心配
8/10	峡東林務環境事務所	1	ヒアリではないアリ	ヒアリ疑い
8/31	中北林務環境事務所	12	チャイロスズメバチ	ツマアカスズメバチ疑い
9/11	中北林務環境事務所	3	ヒアリではないアリ	ヒアリ疑い
9/11	富士・東部林務環境事務所	1	ゴケグモ類ではないクモ	ゴケグモ類疑い
9/12	峡東保健福祉事務所	1	アニサキス	食品衛生検査
10/ 3	県民	1	電話相談	日本住血吸虫病感染源調査について
12/28	県外の人	1	電話相談	県内でのトコジラミ発生状況等について
1/24	富士・東部保健福祉事務所	1	アニサキス	食品衛生検査
3/11	峡東林務環境事務所	1	セアカゴケグモ	セアカゴケグモ疑い
3/12	峡東林務環境事務所	1	セアカゴケグモ	セアカゴケグモ疑い
3/25	峡東林務環境事務所	5	ハエトリグモ	セアカゴケグモ疑い

表 2-2 令和 6 年 甲府地区スギ・ヒノキ花粉飛散量別日数及び平均値

測定期間	月/日～月/日	花粉量		スギ・ヒノキ花粉飛散量別日数					1日当たり花粉飛散平均値	
		スギ	ヒノキ	微量 0～1	少ない ～10	やや多い ～30	多い ～100	非常に多い 101～	スギ	ヒノキ
第1週	1/ 1 ～ 1/ 7	0.0	0.0	7					0.0	0.0
2	1/ 8 ～ 1/14	0.0	0.0	7					0.0	0.0
3	1/15 ～ 1/21	0.0	0.0	7					0.0	0.0
4	1/22 ～ 1/28	1.0	0.0	7					0.1	0.0
5	1/29 ～ 2/ 4	1.1	0.0	7					0.2	0.0
6	2/ 5 ～ 2/11	3.7	0.0	5	2				0.0	0.0
7	2/12 ～ 2/18	56.2	0.0	1	4	2			8.0	0.0
8	2/19 ～ 2/25	127.2	1.2	2	3	1		1	18.2	0.2
9	2/26 ～ 3/ 3	102.7	0.2		5	1	1		14.7	0.0
10	3/ 5 ～ 3/10	62.5	1.1		4	3			8.9	0.2
11	3/12 ～ 3/17	364.1	5.9		2	1		3	52.0	0.8
12	3/19 ～ 3/24	74.9	7.9	3	3		1		10.7	1.1
13	3/26 ～ 3/31	126.7	146.7	1	1	1	2	2	18.1	21.0
14	4/ 1 ～ 4/ 7	23.2	1841.2		1		1	1	3.3	263.0
15	4/ 8 ～ 4/14	11.0	2446.5				1	1	1.6	349.5
16	4/15 ～ 4/21	6.0	912.1			3	1	1	0.9	130.3
17	4/22 ～ 4/28	0.0	64.5	1	3	3			-	9.2
18	4/29 ～ 5/ 5	0.0	10.0	3	4				-	1.4
19	5/ 6 ～ 5/12	0.0	3.1	6	1				-	0.4
20	5/13	0.0	0.0	1					-	0.0
合計		960.3	5440.4	58	33	15	7	9	136.7	777.2

- : 観測終了(飛散終了日に伴う)

観測場所: 衛生環境研究所屋上

花粉量: 1cm²あたりの換算値(個)

表 2-3 令和 5 年度 細菌感染症等に関する検査結果

月 日	依頼機関	疾病名	検体数		結果
			臨床検体	菌株	
4/10	甲府市保健所	CRE 感染症	1		<i>E. cloacae</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
5/ 9	甲府市保健所	CRE 感染症	1		<i>Serratia marcescens</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
5/20	甲府市保健所	レジオネラ症	1		<i>L. pneumophila</i> SG1
5/24	中北保健所	EHEC 感染症	3	1	EHEC O26 (Stx1)
6/ 9	中北保健所	EHEC 感染症	2		-
6/19	中北保健所	EHEC 感染症	5	1	-
6/24	富士・東部保健所	EHEC 感染症	6		-
6/28	中北保健所	CRE 感染症	1	1	<i>K. aerogenes</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
7/ 3	甲府市保健所	レジオネラ症	1		-
7/ 4	富士・東部保健所	レジオネラ症	1		-
8/ 2	甲府市保健所	EHEC 感染症	9		EHEC O157 (Stx1, 2)
8/ 4	中北保健所	EHEC 感染症	1		-
8/ 9	富士・東部保健所	EHEC 感染症	2		EHEC O157 (Stx2)
8/21	甲府市保健所	EHEC 感染症	9		EHEC O26 (Stx1)
8/25	峡東保健所	EHEC 感染症	3		EHEC O157 (Stx2)
8/26	甲府市保健所	EHEC 感染症	54		EHEC O26 (Stx1)
8/28	中北保健所	EHEC 感染症	5		EHEC O26 (Stx1)
8/28	甲府市保健所	EHEC 感染症	39		EHEC O26 (Stx1)
8/29	甲府市保健所	EHEC 感染症	35		EHEC O26 (Stx1)
8/30	甲府市保健所	EHEC 感染症	10		EHEC O26 (Stx1)
8/31	甲府市保健所	EHEC 感染症	13		EHEC O26 (Stx1)
8/31	富士・東部保健所	EHEC 感染症		1	EHEC O157 (Stx2)
9/ 1	甲府市保健所	EHEC 感染症	18		EHEC O26 (Stx1)
9/ 2	甲府市保健所	EHEC 感染症	7		EHEC O26 (Stx1)
9/ 4	甲府市保健所	EHEC 感染症	14		EHEC O26 (Stx1)
9/ 5	甲府市保健所	EHEC 感染症	48		EHEC O26 (Stx1)
9/ 6	甲府市保健所	EHEC 感染症	19		EHEC O26 (Stx1)
9/ 7	中北保健所	EHEC 感染症	2		EHEC O26 (Stx1)
9/ 7	甲府市保健所	EHEC 感染症	6		EHEC O26 (Stx1)
9/ 7	峡南保健所	EHEC 感染症	2	1	EHEC O157 (Stx2)
9/ 8	甲府市保健所	EHEC 感染症	10		EHEC O26 (Stx1)
9/ 8	中北保健所	EHEC 感染症	7		-
9/11	中北保健所	EHEC 感染症	3		-
9/11	甲府市保健所	EHEC 感染症	15		EHEC O26 (Stx1)
9/11	中北保健所	EHEC 感染症	6		-
9/12	甲府市保健所	EHEC 感染症	5		EHEC O26 (Stx1)
9/13	甲府市保健所	EHEC 感染症	12		EHEC O26 (Stx1)
9/13	富士・東部保健所	EHEC 感染症	1		EHEC O26 (Stx1)
9/13	中北保健所	EHEC 感染症	5		-
9/14	甲府市保健所	EHEC 感染症	6		EHEC O26 (Stx1)
9/19	甲府市保健所	EHEC 感染症	13		EHEC O26 (Stx1)
9/19	中北保健所	EHEC 感染症	3		-
9/19	富士・東部保健所	EHEC 感染症	3		EHEC O26 (Stx1)
9/20	甲府市保健所	EHEC 感染症	6		EHEC O26 (Stx1)
9/20	峡南保健所	EHEC 感染症	1		-
9/21	甲府市保健所	EHEC 感染症	3		-
9/25	甲府市保健所	EHEC 感染症	1		-
9/25	富士・東部保健所	EHEC 感染症	2		EHEC O26 (Stx1)
9/26	甲府市保健所	EHEC 感染症	3		EHEC O26 (Stx1)
9/26	中北保健所	EHEC 感染症	3		EHEC O26 (Stx1)
9/26	峡南保健所	EHEC 感染症	1		-
9/27	甲府市保健所	EHEC 感染症	3		EHEC O26 (Stx1)
9/28	甲府市保健所	EHEC 感染症	1		-
9/28	峡東保健所	EHEC 感染症	3	1	EHEC O157 (Stx1, 2)
9/29	中北保健所	EHEC 感染症	1		EHEC O26 (Stx1)
10/ 2	甲府市保健所	EHEC 感染症	2		EHEC O26 (Stx1)
10/ 2	峡東保健所	EHEC 感染症	1		-
10/ 3	甲府市保健所	EHEC 感染症	2		EHEC O26 (Stx1)
10/ 3	富士・東部保健所	EHEC 感染症	1		-
10/ 4	甲府市保健所	EHEC 感染症	3		EHEC O26 (Stx1)
10/ 5	中北保健所	EHEC 感染症	3		EHEC O26 (Stx1)
10/10	甲府市保健所	EHEC 感染症	2		-
10/16	甲府市保健所	EHEC 感染症	2		-
10/18	甲府市保健所	EHEC 感染症	3		-
10/24	甲府市保健所	EHEC 感染症	1		-
10/24	中北保健所	EHEC 感染症	1		-
10/26	甲府市保健所	EHEC 感染症	1		-
10/31	富士・東部保健所	EHEC 感染症		1	EHEC O157 (Stx1, 2)
11/ 6	中北保健所	EHEC 感染症	2	1	-
12/ 5	甲府市保健所	CRE 感染症	1	1	<i>K. aerogenes</i> (カルバペネマーゼ非産生性)
12/ 5	甲府市保健所	レジオネラ症	1		<i>L. pneumophila</i> SG1
1/ 6	甲府市保健所	EHEC 感染症	2		-
1/ 9	甲府市保健所	EHEC 感染症	3		-
1/24	中北保健所	EHEC 感染症	5	1	EHEC O103 (Stx1)
1/30	甲府市保健所	EHEC 感染症	11		-
2/ 6	中北保健所	EHEC 感染症	3		EHEC O103 (Stx1)
2/20	中北保健所	EHEC 感染症	1		-
3/ 7	中北保健所	EHEC 感染症	2		-
3/12	中北保健所	EHEC 感染症	3	1	-
3/18	峡東保健所	EHEC 感染症	2	1	-
3/21	峡東保健所	EHEC 感染症	1		-
3/22	峡東保健所	細菌性赤痢	1		-
3/28	峡東保健所	細菌性赤痢	1		-
合計			492	14	

EHEC : 腸管出血性大腸菌 CRE : カルバペネム耐性腸内細菌目細菌

表 2-4 令和 5 年度 食中毒・集団下痢症等の細菌検査結果

月日	依頼機関	検体数			計	検出菌	
		臨床検体	食品	その他		臨床検体(株数)	食品・その他(株数)
7/25	甲府市保健所			5	5		-
7/25	峡東保健所	1			1	<i>C. jejuni</i> (1)	
8/23	富士・東部保健所	11	12	9	32	-	-
9/ 5	峡南保健所	6			6	<i>C. perfringens</i> (5)	
9/ 6	甲府市保健所	2		5	7	<i>C. perfringens</i> (1)	-
9/14	甲府市保健所	1			1	-	
9/16	富士・東部保健所	2		1	3	-	-
9/16	中北保健所	2			2	<i>C. perfringens</i> (1)	
9/17	甲府市保健所	3		5	8	-	
9/19	甲府市保健所	5			5	<i>S. aureus</i> (2)	
9/22	甲府市保健所	2			2	-	
10/11	甲府市保健所	9			9	-	
10/28	中北保健所	5			5	-	
11/1	中北保健所	1			1	<i>C. jejuni</i> (1), EPEC (1)	
11/1	甲府市保健所	9	6	17	32	-	-
11/2	峡南保健所	1			1	<i>C. jejuni</i> (1)	
11/2	甲府市保健所	1			1	<i>C. jejuni</i> (1)	
12/6	甲府市保健所	1			1	-	
12/6	甲府市保健所			5	5		-
12/7	甲府市保健所	1			1	-	
1/11	甲府市保健所	8			8	-	
3/5	富士・東部保健所	9		9	18	-	-
3/21	中北保健所	1			1	-	
3/27	中北保健所	1			1	-	
合計		82	18	56	156		

EPEC：腸管病原性大腸菌

表 2-5 令和 5 年度 食品・医薬品等に関する細菌検査結果

月日	依頼機関	検査項目	検体	検体数	結果
5/12	峡東保健所	一般生菌数 大腸菌群 黄色ブドウ球菌	モンブランケーキ	2	300000000/g以上 大腸菌群 陰性 黄色ブドウ球菌 陰性
合計				2	

表 2-6 令和 5 年度 浴槽水等レジオネラ属菌検査結果

採水日	依頼機関	検体数	陽性検体数	菌種 (株数)	群血清 (株数)
7/3	峡南	16	0	-	
7/4	富士・東部	7	0	-	
12/5	甲府市	6	0	-	
3/19	峡南	13	3	<i>Legionella pneumophila</i> (3) レジオネラ属菌 (2)	SG1 (3)
合計		42	3		

表 2-7 令和 5 年度 ふきとり検査結果

依頼機関	大腸菌群		黄色ブドウ球菌	
	検査数	陽性数 (%)	検査数	陽性数 (%)
衛生薬務課	1,218	89 (7.3)	1,218	16 (1.3)
保健所	280	40 (14.3)	280	9 (3.2)
合計	1,498	129 (8.6)	1,498	25 (1.7)

表2-8 令和5年度 収去食品の細菌検査件数

収去区分	分類	検体数	一般細菌数	大腸菌群	E.coli	腸管出血性大腸菌							黄色ブドウ球菌	セレウス菌	サルモネラ属菌	リステリア・モノサイトゲネス	乳酸菌数	抗生物質	E.coli (最確数)	腸炎ビブリオ (増菌培養)	腸炎ビブリオ (最確数)	微生物	合計
						O26	O103	O111	O121	O145	O157												
衛生課	生食用魚介類	3																	3			3	
	生食用力キ	1	1															1		1		3	
	魚肉ねり製品	5	5			3	3	3	3	3	3											23	
	食肉製品	6		6	3	3	3	3	3	3												36	
	液卵	1	1																			1	
	牛乳	1	1																			2	
	乳飲料	4	4																			8	
	発酵乳	3	3														3					6	
	アイスクリーム	1	1	1																		2	
	ラクトアイス	1	1	1																		2	
	氷菓	1	1	1																		2	
	氷雪	3	3	3																		6	
	めん類	10	10	2		8																30	
	そうざい(加熱処理)	105 (3)	105 (3)			105	26	26	26	26	26	26										471 (3)	
	そうざい(非加熱処理)	13 (4)	13 (4)			13	4	4	4	4	4	4										63 (4)	
	弁当類	60	60			60	6	6	6	6	6	6			43							259	
	包装豆腐	2	2	2																		4	
	その他の豆腐	4	4	4																		8	
	漬物、一夜漬け	2	2	2		2	2	2	2	2	2	2							2			16	
	カット野菜	3	3	3		3																9	
	生菓子	17	17	17																		51	
	冷凍食品	13	13	4		9																26	
	ミネラルウォーター	43 (1)	43 (1)	43																		86 (1)	
	清涼飲料水	35	35	35																		35	
	ナチュラルチーズ	3	3																		3	3	
	その他の菓子	2	2	2																		6	
	容器包装詰加圧加熱殺菌食品	3																				3	
抗生物質	29																			29	29		
小計	374 (8)	285 (8)	128	206	44	44	44	44	44	44	44	44	44	43	6	3	29	1	2	4	3	### (8)	
アイスクリーム	4	4	4																		8		
アイスミルク	8	8	8																		16		
ラクトアイス	4	4	4																		8		
そうざい(加熱処理)	11	11		11																	33		
そうざい(非加熱処理)	4	4		4																	12		
弁当類	3 (1)	3 (1)		3																	12 (1)		
生菓子	23 (3)	23 (2)	23 (1)																		69 (3)		
調理パン	10 (2)	10 (2)	10																		30 (2)		
その他の豆腐	1	1	1																		2		
めん類	2	2	2																		6		
小計	70 (6)	70 (5)	40 ##	30	44	44	44	44	44	44	44	44	44	46	6	3	29	1	2	4	3	### (6)	
合計	444 (14)	355 (13)	168 ##	236	44	44	44	44	44	44	44	44	44	269	6	3	29	1	2	4	3	### (8)	

()内は、「規格基準」又は「山梨県食品指導基準」に適合していない数

表 2-9 令和 5 年度 インフルエンザ流行予測調査結果

1: A/Victoria/4897/2022A (A (H1N1) pdm09 亜型) 株に対する HI 抗体価

年齢層 (歳)	例数	H I 抗体価								≥10抗体 保有者数 (%)	≥40抗体 保有者数 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320	≥640		
5~9	3	1	2	0	0	0	0	0	0	2 (66.7)	0 (0.0)
10~14	6	2	4	0	0	0	0	0	0	4 (66.7)	0 (0.0)
15~19	4	3	0	1	0	0	0	0	0	1 (25.0)	0 (0.0)
20~29	18	11	5	1	1	0	0	0	0	7 (38.9)	1 (5.6)
30~39	17	17	0	0	0	0	0	0	0	0 (0.0)	0 (0.0)
40~49	22	9	9	4	0	0	0	0	0	13 (59.1)	0 (0.0)
50~59	22	8	9	5	0	0	0	0	0	14 (63.6)	0 (0.0)
60~	22	19	3	0	0	0	0	0	0	3 (13.6)	0 (0.0)
全年齢層	114	70	32	11	1	0	0	0	0	44 (38.6)	1 (0.9)

2: A/Darwin/9/2021 [A (H3N2) 亜型] 株に対する HI 抗体価

年齢層 (歳)	例数	H I 抗体価								≥10抗体 保有者数 (%)	≥40抗体 保有者数 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320	≥640		
5~9	3	1	0	1	1	0	0	0	0	2 (66.7)	1 (33.3)
10~14	6	1	0	3	2	0	0	0	0	5 (83.3)	2 (33.3)
15~19	4	0	2	0	2	0	0	0	0	4 (100.0)	2 (50.0)
20~29	18	0	4	8	5	1	0	0	0	18 (100.0)	6 (33.3)
30~39	17	3	3	4	4	1	2	0	0	14 (82.4)	7 (41.2)
40~49	22	9	2	2	3	5	1	0	0	13 (59.1)	9 (40.9)
50~59	22	12	1	1	3	2	3	0	0	10 (45.5)	8 (36.4)
60~	22	13	2	0	3	2	2	0	0	9 (40.9)	7 (31.8)
全年齢層	114	39	14	19	23	11	8	0	0	75 (65.8)	42 (36.8)

3: B/Phuket/3073/2013 [B型 (山形系統)] 株に対する HI 抗体価

年齢層 (歳)	例数	H I 抗体価								≥10抗体 保有者数 (%)	≥40抗体 保有者数 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320	≥640		
5~9	3	0	0	2	1	0	0	0	0	3 (100.0)	1 (33.3)
10~14	6	0	2	1	3	0	0	0	0	6 (100.0)	3 (50.0)
15~19	4	0	0	2	1	0	1	0	0	4 (100.0)	2 (50.0)
20~29	18	2	4	4	2	5	1	0	0	16 (88.9)	8 (44.4)
30~39	17	2	0	4	5	5	1	0	0	15 (88.2)	11 (64.7)
40~49	22	4	3	5	5	3	1	1	0	18 (81.8)	10 (45.5)
50~59	22	4	4	3	5	4	0	0	2	18 (81.8)	11 (50.0)
60~	22	2	3	10	4	3	0	0	0	20 (90.9)	7 (31.8)
全年齢層	114	14	16	31	26	20	4	1	2	100 (87.7)	53 (46.5)

4: B/Austria/1359417/2021 [B型 (ビクトリア系統)] 株に対する HI 抗体価

年齢層 (歳)	例数	H I 抗体価								≥10抗体 保有者数 (%)	≥40抗体 保有者数 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320	≥640		
5~9	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0 (0.0)	0 (0.0)
10~14	6	1	2	3	0	0	0	0	0	5 (83.3)	0 (0.0)
15~19	4	0	2	2	0	0	0	0	0	4 (100.0)	0 (0.0)
20~29	18	9	7	1	1	0	0	0	0	9 (50.0)	1 (5.6)
30~39	17	10	5	1	1	0	0	0	0	7 (41.2)	1 (5.9)
40~49	22	6	2	8	3	0	2	0	1	16 (72.7)	6 (27.3)
50~59	22	3	4	6	1	4	2	0	2	19 (86.4)	9 (40.9)
60~	22	3	4	4	2	4	4	1	0	19 (86.4)	11 (50.0)
全年齢層	114	35	26	25	8	8	8	1	3	79 (69.3)	28 (24.6)

表2-10 令和5年度 感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況と臨床像

検出ウイルス	検体数	2023年												2024年			合計	臨床像
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
		315	50	289	153	522	444	323	179	154	169	14	25					
インフルエンザウイルス ^(*)2)																		
A(H1) pdm09																		
A(H3) 亜型	17																	
B型ピクトリア系統																		
B型山形系統																		
サブクラスB																		
6型 VariantB	1																	
3型																		
37型																		
56型																		
新型コロナウイルス ^(*)2)	10	4	23	3	3	12	65	36	16	18	33							
E型肝炎ウイルス ^(*)1)																		
エムボックスウイルス ^(*)2)																		
合計	28	4	24	5	5	15	71	59	43	44	49	14	14	14				370

(※1)PCR法で遺伝子検出
 (※2)リアルタイムPCR法で遺伝子検出

表 2-11 令和 5 年度 食中毒・集団下痢症のウイルス検査

月日	保健所	検体数	検 体				検出ウイルス*	検出数
			糞便	吐物	食品	ふきとり		
4.8	峡南	4	4				ノロウイルスG II	4
4.12	峡東	8	2			6	ノロウイルスG II	2
5.21	甲府	8	8				ノロウイルスG I	3
6.9	甲府	14	14				ノロウイルスG II	11
7.25	甲府	5				5	—	0
	峡東	1	1				—	0
8.22	甲府	5	5				—	0
8.23	富士東部	38	11		12	15	ノロウイルスG II	3
9.5	峡南	6	6				—	0
9.16	富士東部	2	2				—	0
10.11	甲府	9	9				ヒトパレコウイルス	6
10.2	甲府	6	6				ノロウイルスG II	4
10.24	中北	18	18				ノロウイルスG II	9
10.28	中北	5	5				—	0
11.1	中北	1	1				—	0
	峡南	1	1				—	0
	甲府	1	1				—	0
11.1	甲府	32	9		6	17	ノロウイルスG II	8
11.16	甲府	12	12				ノロウイルスG II	9
11.18	甲府	20	20				ノロウイルスG II	20
12.1	峡東	8	8				ノロウイルスG II	3
12.5	甲府	10	10				ノロウイルスG II	10
12.6	甲府	7	2			5	ノロウイルスG I	2
12.6	富士東部	54	18		12	24	ノロウイルスG II	8
12.6	峡南	35	20		15		ノロウイルスG II	8
12.7	富士東部	3	3				ノロウイルスG II	3
12.14	甲府	15	9			6	ノロウイルスG II	8
12.15	甲府	9	9				ノロウイルスG II	9
12.19	中北	11	11				ノロウイルスG II	6
12.21	富士東部	15	15				ノロウイルスG II	12
1.11	甲府	24	8		11	5	ノロウイルスG II	2
	中北	3	3				ノロウイルスG II	1
	峡南	3	3				ノロウイルスG II	2
1.17	甲府	11	11				ノロウイルスG II	11
1.19	富士東部	12	12				ノロウイルスG II	10
1.30	甲府	13	13				サボウイルス	6
2.27	富士東部	3	3				ノロウイルスG II	3
3.2	富士東部	34	24			10	ノロウイルスG I	8
3.5	富士東部	18	9			9	ノロウイルスG I	1
							<i>Kudoa septempunctata</i>	4
3.21	中北	1	1				ノロウイルスG II	1
	甲府	2	2				ノロウイルスG II	2
3.26	富士東部	4	4				ノロウイルスG II	4
3.27	中北	1	1				—	0
	合 計	492	334	0	56	102		203

*検出方法は全てリアルタイムPCR法

表 3 令和 5 年度 環境汚染に係る苦情、事故等に伴う検査

月 日	依頼者	種 別	摘 要	検 体	項 目
5/17	食糧花き水産課	水質汚濁	地下水水質調査	2	6
		合 計		2	6

IV 論文抄録および学会発表

論文抄録

Sakura Arai, Shouhei Hirose, Keita Yanagimoto, Yuka Kojima, Satoko Yamaya, Takuya Yamanaka, Norihisa Matsunaga, Akihito Kobayashi, Naoto Takahashi, Takayuki Konno, Yuki Tokoi, Nozomi Sakakida, Noriko Konishi, Yukiko Hara-Kudo

An interlaboratory study on the detection method for *Escherichia albertii* in food using real time PCR assay and selective agars

Int J Food Microbiol., **414**, 110616, (2024)

Escherichia albertii is an emerging enteropathogen. Although *E. albertii*-specific detection and isolation methods have been developed, their efficiency on food samples have not yet been systematically studied. To establish a series of effective methods for detecting *E. albertii* in food, an interlaboratory study was conducted in 11 laboratories using enrichment with modified *E. coli* broth supplemented with cefixime and tellurite (CT-mEC), real-time PCR assay, and plating on four kinds of selective agars. This study focused on the detection efficiency of an *E. albertii*-specific real-time PCR assay (EA-rtPCR) and plating on deoxycholate hydrogen sulfide lactose agar (DHL), MacConkey agar (MAC), DHL supplemented with rhamnose and xylose (RX-DHL), and MAC supplemented with rhamnose and xylose (RX-MAC). Chicken and bean sprout samples were inoculated with *E. albertii* either at 17.7 CFU/25 g (low inoculation level) or 88.5 CFU/25 g (high inoculation level), and uninoculated samples were used as controls. The sensitivity of EA-rtPCR was 1.000 for chicken and bean sprout

samples inoculated with *E. albertii* at low and high inoculation levels. The Ct values of bean sprout samples were higher than those of the chicken samples. Analysis of microbial distribution by 16S rRNA gene amplicon sequencing in enriched cultures of bean sprout samples showed that approximately >96 % of the population comprised unidentified genus of family Enterobacteriaceae and genus *Acinetobacter* in samples which *E. albertii* was not isolated. The sensitivity of the plating methods for chicken and bean sprout samples inoculated with a high inoculation level of *E. albertii* was 1.000 and 0.848-0.970, respectively. The sensitivity of the plating methods for chicken and bean sprout samples inoculated with a low inoculation level of *E. albertii* was 0.939-1.000 and 0.515-0.727, respectively. The *E. albertii*-positive rate in all colonies isolated in this study was 89-90 % in RX-DHL and RX-MAC, and 64 and 44 % in DHL and MAC, respectively. Therefore, the sensitivity of RX-supplemented agar was higher than that of the agars without these sugars. Using a combination of enrichment in CT-mEC and *E. albertii* isolation on selective agars supplemented with RX, *E. albertii* at an inoculation level of over 17.5 CFU/25 g of food was detected with a sensitivity of 1.000 and 0.667-0.727 in chicken and bean sprouts, respectively. Therefore, screening for *E. albertii*-specific genes using EA-rtPCR followed by isolation with RX-DHL or RX-MAC is an efficient method for *E. albertii* detection in food.

望月映希, 鶴田芙美, 大森雄貴

山梨県の増富地域における酸性河川および単純酸性冷鉱泉

温泉科学, 73 (2), 56-65 (2023)

山梨県北杜市須玉町、増富地域の小尾地区内を調査したところ、今までに知られていないpH4程度の硫酸酸性の河川と、その硫酸源の一つであるpH2.9~4.9の湧水を発見した。酸性の湧水の一つを調査したところ、鉱泉分析法指針（平成26年改定）に定める酸性・含鉄-単純冷鉱泉に相当する水質であることが明らかとなった。また、温泉水の起源は天水であり、温泉成分の起源は付近に埋蔵されている熱水鉱脈鉱床であると示唆された。

学 会 発 表

○大嶋真浩, 高木規峰野, 酒井信夫, 五十嵐良明, 大泉詩織, 岩館樹里, 今野鈴子, 大槻良子, 草原紀子, 大竹正芳, 角田徳子, 上村仁, 田中礼子, 高居久義, 渡邊好介, 堀井裕子, 望月映希, 羽田好孝, 山本優子, 若山貴成, 小寺明, 吉田俊明, 古市裕子, 八木正博, 伊達英代, 高木春佳, 島田友梨, 松永尚子, 田崎森也

令和 4 年度室内空気環境汚染に関する全国実態調査 (第 60 回全国衛生化学技術協議会年会, 2023, 11, 9~10)

○高橋史恵, 中田陽子, 安田泰輔

ブタクサの開花日予測に向けたブタクサの植生・開花調査と気象データの解析 (令和 5 年度山梨県公衆衛生研究発表会, 2024. 2. 6)

○柳本恵太, 山上隆也, 植松香星, 馬場かおる, 山縣然太郎, 久田美子

保育所を中心に拡大した腸管出血性大腸菌 O26 の集団感染事例について (第35回地方衛生研究所関東甲信静支部細菌研究部会, 2024. 2. 8~9)

○山本真也, 長谷川裕弥, 中村高志

窒素・酸素安定同位体解析による河口湖の流入河川及び湖水中の硝酸イオンの起源推定 (水文・水資源学会/日本水文科学会 2023 年度研究発表会, 2023. 9. 3~6)

○鈴木元治, 岩渕勝己, 阿部なるみ, 長濱祐美, 見島伊織, 石井裕一, 長谷川裕弥, 大島詔, 濱脇亮次, 西嶋渉

日本各地の水環境中有機物の分解特性にみられる共通性について (第 26 回日本水環境学会シンポジウム, 2023. 9. 20~21)

○長谷川裕弥, 田村伸二

事業場排水におけるふっ素測定について (令和 5 年度全国環境研協議会関東甲信静支部水質専門部会, 2023. 10. 27)

○長谷川裕弥

河口湖と精進湖における難分解性有機物に関する検討 (第 58 回日本水環境学会年会, 2024. 3. 6~8)

○鈴木元治, 岩渕勝己, 高橋幸子, 長濱祐美, 見島伊織, 横山智子, 石井裕一, 長谷川裕弥, 山口保彦, 大島詔, 濱脇亮次, 西嶋渉

日本各地の水環境中有機物の分解特性について (第 58 回日本水環境学会年会, 2024. 3. 6~8)